



ウィリアム・フォーサイス
William Forsythe
(1949年12月30日生)

フォーサイス氏は、アメリカ合衆国出身ですがドイツを中心に活動する最も先鋭的なバレエ振付家です。モダン・バレエを deconstructive (解体し構築) することで現在のコンテンポラリー・ダンスを作り上げた新しいダンスの牽引者の一人です。彼はダンスという身体言語を先鋭的に解釈し直して、ダンス作品の可能性を21世紀につなげています。彼の活動には今も目が離せません。

<http://www.theforsythecompany.com/>

松澤慶信

〈日本女子体育大学舞踊学専攻教授〉
(1958年4月20日生)

舞踊美学、舞踊史学。ダンスへの突き抜けるような快感に満たされて早30有余年。監修著『ウィリアム・フォーサイスのインプロヴィゼーション・テクノロジーズ』(日本版2000)、Agnès IZRINE 著『La Danse dans tous ses Etats』(共訳2010)共に慶應義塾大学出版会、監修著『現代的なリズムのダンス指導』フラックス・パブリッシング(2010)、監修著『ドイツ・ダンスの100年』(1996) 監修著『フランス・ダンスの100年』(1998) 監修著『英国ダンスの100年』(2000)



Bongo Bongo,
9 phases

～ウィリアム・フォーサイス作品を利用したオンデマンド・ダンス教材～



日本女子体育大学
ダンス・プロデュース研究部
【<http://www.danprs.jp>】

2003年日本女子体育大学舞踊学専攻の学生有志によって発足されたダンス・プロデュース研究部は、コンテンポラリー・ダンスの次世代を担う覚悟と心意気を持って、新たなダンシングの動きと動向を模索し、振付はもとより、自ら企画制作して公演を定期的に打つことを目的として活動しています。

また国内外の講師によるワークショップ、照明・音響などの舞台技術や制作のノウハウの習得、他大学との連携、地域交流のモデルとなるコミュニティ・ダンスにも取り組み、ダンスの可能性を拡げようと広く深くダンス的な営為を追求する団体です。



ドイツ文化センター
【<http://www.goethe.de/tokyo>】

ゲーテ・インスティトゥート(ドイツ文化センター)はドイツ連邦共和国外務省の外郭団体で、世界各国で活動を行っている文化機関です。60年以上にわたり、海外でのドイツ語の普及を促進し、世界の国々とドイツとの文化交流を実践、また文化、社会、政治についての情報を発信して、ドイツの全体像を紹介しています。



デジタルハリウッド株式会社
【<http://www.dhw.co.jp>】

1994年10月、数多くの企業/団体の協力を得ながら日本初の「産学協同型実践的クリエイター養成スクール」として設立。

2004年には株式会社として初の文部科学省認可の専門職大学院を、翌05年には四年制大学を東京・秋葉原に開学。

以来、現在に至るまで日本のデジタルコンテンツ産業の発展を目標に掲げ、教育活動を推進しています。設立以来すでに5万人もの卒業生を輩出し、そのネットワークは業界の隅々にまで浸透。

産業界で活躍する卒業生も、デジタルハリウッドとの新たなシナジーを生んでいます。



株式会社シアター・テレビジョン
【<http://www.theatertv.co.jp>】

シアター・テレビジョンは、1996年多チャンネル時代の幕開けと共に誕生しました。16年にわたり、バリ・オペラ座、英国ロイヤル・バレエ団、ミラノ・スカラ座など世界トップクラスのパレエ、オペラ、ミュージカル、演劇などを放映してきました。

2009年からは放映ジャンルを拡充し、文化、歴史、政治、シンポジウム、オリジナルドキュメンタリーと多岐に渡る番組編成で24時間全国にお届けしています。



フォーサイス・モジュールに関するお問い合わせ
東京ドイツ文化センター(小高)
03-3584-3201 kodaka@tokyo.goethe.org

Bongo Bongo, 9 phases に関するお問い合わせ
Bongo Bongo, 9 phases Project
press@danprs.jp

広報用の写真素材を下記よりダウンロード可能です。
下記リンクよりダウンロードの上、ご自由にお使い下さい。
www.danprs.jp

photos by Keisuke Kamiyama / flyer designed by Hironori Suzawa

<http://www.danprs.jp/>
このアドレスにアクセス

日本女子体育大学 ダンス・プロデュース研究部（部長：松澤慶信）は、東京ドイツ文化センターの支援の下、デジタルハリウッド株式会社、株式会社シアター・テレビジョンの協力を仰ぎ、コンテンポラリー・ダンスの世界的な振付家であるウィリアム・フォーサイス氏の作品 Bongo Bongo Nageela を活用したインターネット向けインタラクティブ・オンデマンド・ダンス教材（ホームページにて無償公開）Bongo Bongo, 9 phases（以下、本コンテンツ）の配信を開始いたしました。

この教材を Web Publications として提供するにあたり、代表の松澤が 2012 年 3 月ドイツ・フランクフルトにあるフォーサイス・カンパニーを訪問し、フォーサイス氏ご本人に直接本コンテンツの企画趣旨について説明を行い、サンプル映像をレビューいたしました。

フォーサイス氏より、彼のメディアとの長い歴史の中でもあらたな試みとして、今後、自分の履歴に載せて誇りたいというこの企画への絶賛の言葉と、本コンテンツの題材作品 Bongo Bongo Nageela の使用許可（音楽の使用許可はトム・ウィレム氏から）をいただきました。ホームページ上のフォーサイス氏へのインタビューの中で彼自身が語っているように、日本の中学校においてダンスが必修科目になったことに対し、本コンテンツが日本の保健体育の教材として活用されることを期待するとともに、中学生以外の様々な人たちにも本コンテンツを通してダンスの楽しさを味わってほしいという感想もいただきました。

新学習指導要領のもと、 中学校保健体育の教材として

新学習指導要領のもと、2012 年 4 月より中学校の保健体育において「ダンス」が必修科目となったことを受け、本コンテンツが保健体育の教材として活用されることを期待します。ダンスに興味がある生徒はもちろんのこと、ダンスに興味がない生徒でも楽しく覚えられるような工夫を用意いたしました。本コンテンツを通してダンスの楽しさを知ってもらい、保健体育の授業の充実、中学教育へのダンス普及の一助となればと期待しています。

企画趣旨

1994 年、ウィリアム・フォーサイス氏のフランクフルト・バレエ団芸術監督就任 10 周年を祝うために、カールスルーエにあるメディア・テクノロジー・センター（ZKM）と共同制作して作られた Improvisations Technologies は「動きの辞書」ともいうべき教材で、当時最新のメディア・テクノロジーを駆使して、しかもインタラクティブに独習することができるように、彼の特異なダンス・ボキャブラリーを採集・編集して作られたのでした。

その後オハイオ州立大学とフォーサイス氏が共に作りあげた web コンテンツの Synchronous Objects (<http://synchronousobjects.osu.edu/>) は、彼の代表的な作品 One Flat Thing, Reproduced（俗称「テーブル・ダンス」）を分析してデータ化し図像化した、いわば身体的な思考が自由にイラストレーション化される実例が満載されているコンテンツとなっています。

そこで今回、私たちが作成したインタラクティブ・オンデマンド教材は、彼の作品を実際に踊ってみようというメイキングを主旨とします。上記のように辞書があり、作品分析がすでにあるのですから、そろそろ大胆にも彼の作品を踊ってしまおうという意図のもとに、この企画が生まれました。

日本女子体育大学 ダンス・プロデュース研究部は、すでにこの Bongo Bongo の映像を見て、自分たちで振りうつしを行い、実際に踊ったりもしてきましたが、2011 年、東京ドイツ文化センター、慶應義塾大学アートセンターとの共催による『身体のイラストレーション』というワークショップ&シンポジウムを開催した際に、「フォーサイス作品をメイキング化しホームページに載せて誰でもがアクセスできるようにしよう」という提案により、その後本格的な制作活動に入り、約一年間の期間を終え 2012 年 8 月 1 日に本コンテンツの公開が実現しました。

Bongo Bongo, 9 phases

～ウィリアム・フォーサイス作品を利用したオンデマンド・ダンス教材～



フォーサイス・モジュール

本プロジェクトは、ゲーテ・インスティトゥート（本部・ミュンヘン）の重点支援事業「フォーサイス・モジュール」から発展した企画です。同事業は、フランクフルトを中心に活躍する、世界的に著名なウィリアム・フォーサイス氏の活動を多角的に紹介するため、ゲーテ・インスティトゥートが拠点を持つ世界各国で実施されていますが、日本では、『身体のイラストレーション - フォーサイスと土方巽シンポジウムとワークショップ』2011 年 11 月 11 日（金）- 13 日（日）ドイツ文化会館ホール (<http://www.goethe.de/ins/jp/tok/ver/acv/tut/2011/ja8269826v.htm>) として『フォーサイス・ダンス・スタディ・エクステンジ』2012 年 3 月 3 日（土）山口情報芸術センター（YCAM）スタジオ A がすでに行われました。 (<http://www.goethe.de/ins/jp/tok/ver/acv/tut/2012/ja8743271v.htm>)

撮影とコンテンツの作成

本コンテンツの映像撮影会場はフォーサイス氏も日本公演で使用した会場である「彩の国さいたま劇場」で、のべ 3 日間にわたり撮影が行われました。その間に来日中であった元フランクフルト・バレエ団のアントニー・リッチー氏に Bongo Bongo の振りうつしのコーチングをしていただきました。撮影スタッフは舞台撮影では群を抜いている技術力を持つ株式会社シアター・テレビジョンのクルーが担当し、動画再生機能を含めインタラクティブなインタフェースの開発はデジタルハリウッド株式会社が担当し、クオリティの高いコンテンツへと仕上がっています。

Bongo Bongo, 9 phases ホームページ紹介 トップ（図 I）

トップページでは、本コンテンツの紹介映像（フォーサイス氏が写っている小窓：5 分程度）をご覧ください。フォーサイス氏より、日本の中学校においてダンスが必修科目になったことについて、本コンテンツが日本の保健体育の教材として活用されることを期待するとともに、もちろん中学生以外にも様々な人に本コンテンツを通してダンスの楽しさ味わって欲しいとの感想をいただきました。

使い方（図 II）

使い方のページでは、本コンテンツの詳しい使い方をご確認いただけます。

スタッフ&キャスト（図 III）

「コメント再生」をクリックすることで、フォーサイス氏からのメッセージや、振りうつしのコーチングをしたアントニー・リッチー氏のインタビュー動画をご覧ください。

その他

その他、企画趣旨や作品紹介、ウィリアム・フォーサイスについて、そしてストーリーのページでは、ダンスパートを担当した日本女子体育大学ダンス・プロデュース研究部のダンサーたちの活動を写真で綴ったストーリーをご覧ください。



※図 I



※図 II



※図 III